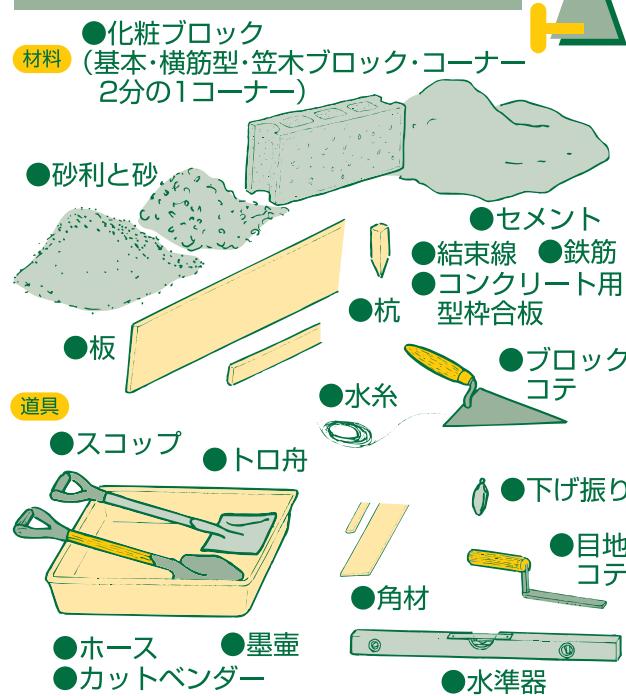


用意する物



どうせやるなら、化粧ブロックの塀にしましょう。

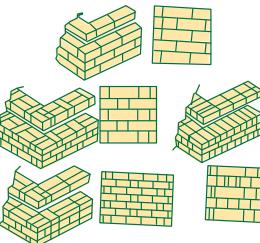
造りたい塀の長さを測り、高さを決めます。化粧ブロックの厚みは10cmなので、高さは7~8段が限度です。次に目地の幅を1cmとしてブロックの数を割り出してください。コーナー用や2分の1ブロックが必要ならそれも加えておいてください。また控え塀は3m(6ブロック)ごとに、塀と同じ高さで、長さ50cm(1ブロック)のものを設けなければなりません。鉄筋は直径9mmのものを使用し、縦の筋は1ブロックごとに、横の筋は60cm(3段)以下の間隔で入れるようにしてください。積み方はブロック塀と同じです。



ここがポイント!

●レンガの積み方

基本的にはブロックと同じですが、モルタルは接觸する面全体に塗ってください。レンガは水につけておき、積むときに水から出してモルタルをつけるようにしましょう。レンガは水分を吸収しますので、濡らしておかないとモルタルの水分を吸収して、モルタルの粘着力をなくしてしまいます。積み方はイラストのようないろいろな形があります。



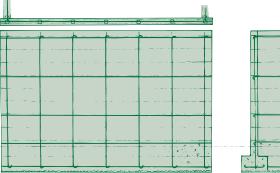
●目地はきちんと仕上げる

9mm幅の目地コテを使ってきれいに仕上げてください。モルタルが足りない部分は補充しながら整えていきます。しかし最後にまとめて仕上げようすると途中で乾いてしまうので、ある程度まとまつたら作業の途中で目地作りをしましょう。



●ブロック塀には必ず控え塀を作る

地震でブロック塀が倒れてしまわないようにするためには、基礎をしっかりと作ること、必ず鉄筋をいれること、そして3mおきに必ず控え塀を作ることです。



サービスのご案内



配達・ペイメント
切り売り商品
修理



返品・交換
表札・額の受注
スペアキーづくり

●クレジットもご利用になれます。



HOME CENTER
SEKICHIU
ホームセンター セキチュー

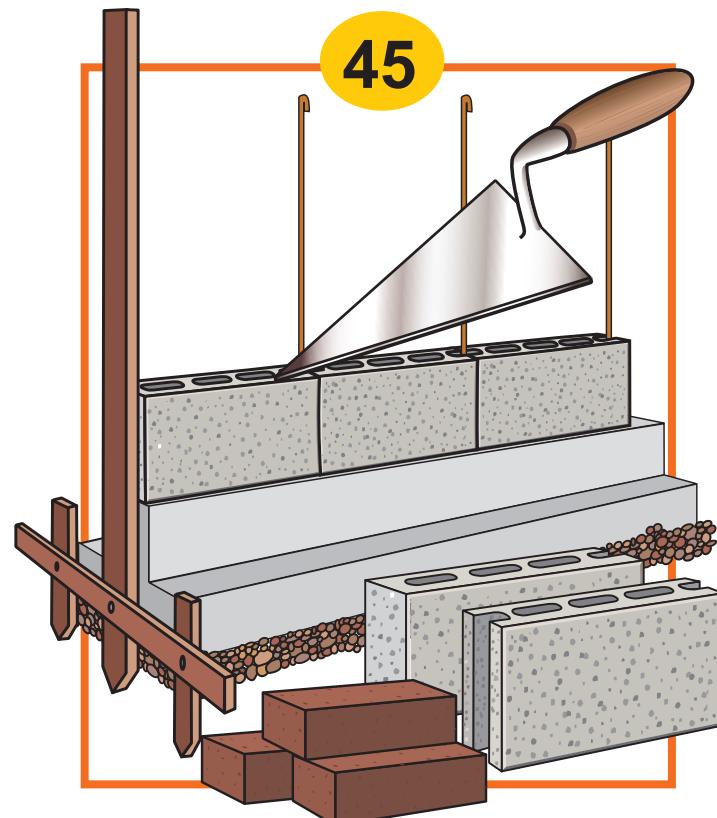
制作発行／株式会社セキチュー 販売促進部
〒370-1201 群馬県高崎市倉賀野町4531-1
TEL.027-345-1111(大代表)

©無断転載は禁止します

ブロックとレンガの積み方

自分でやってみよう!

セキチュー How To D.I.Y



自分でブロック塀をつくるとなると、たいへんな労力が必要です。

でも造り上げたときの達成感はなものにも替えがないものになるのではないでしょか。

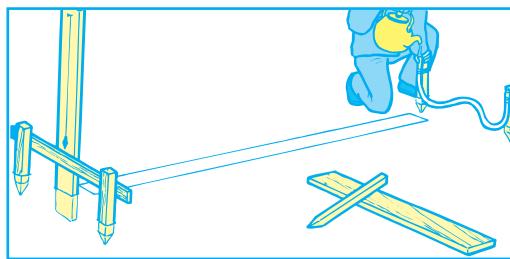
本格的なブロックの積み方を紹介しますので、時間に余裕のある方はぜひチャレンジしてみてください。

Do it Yourself & Save

基礎作り

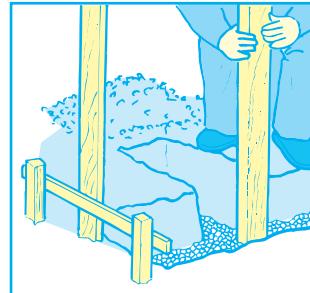
1 遣方(やりかた)を立てます。

予定地の両端から少し離れたところに杭を2本ずつ打ちこみます。次に水平を出しますが、それは1本の杭にホースの片方の端を縛っておき、もう片方の端を他の杭に当てて水を注ぎます。水位が適当な高さになったら杭に印をつけ、縛っていないホースの先端を他の杭に動かして同様に印をつけていけば、4本の杭に水平な印をつけることができます。あとはその水平の印のところに横遣方(水抜き)を水平にクギで打ちつけ、次に杭の中心にブロックと同じ幅の板(縦遣方)を垂直に立ててください。長さは塀の上端より多少高くして、下げる振りを使って垂直を確認します。



2 溝を作ります。

幅も深さも約40cmぐらいの溝を掘りましょう。控え塀の部分も同じです。掘ったら砂利を敷き詰めて、角材でよく突き固めてください。



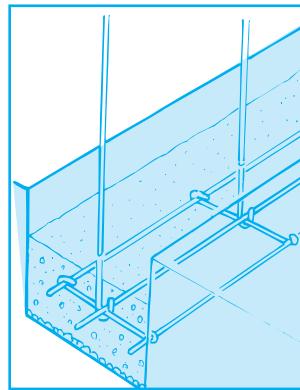
3 基礎の鉄筋を準備します。

横筋は塀の長さのもの3本と溝の長さのものをブロックごとに用意し、縦筋は砂利の上から塀の上端までの長さのものが必要になります。鉄筋の先はカットベンダーで、すべてU地形に曲げてください。



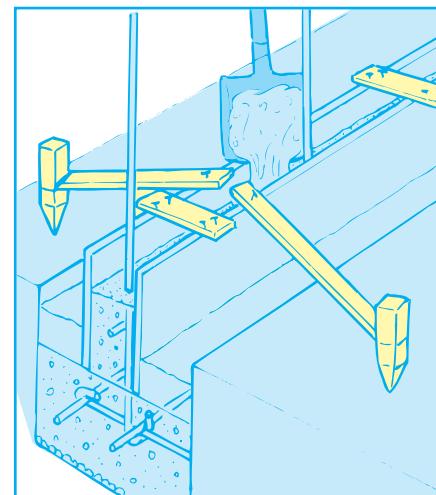
4 土台にコンクリートを打ちます。

底に敷いた砂利を濡らしてからコンクリートを厚さ7~8cmほど流しこみます。その上に正しく組んだ鉄筋を乗せ、地表から15cmぐらいの深さまでコンクリートを流しこみます。そして約1日そのままにしておきます。



5 基礎コンクリートを打ちます。

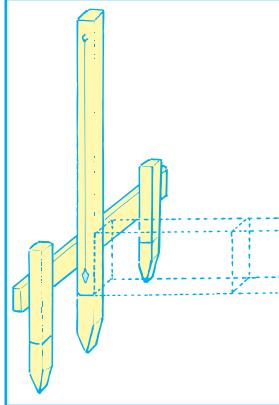
先に打ったコンクリートの上に墨壺で直線の印をつけ、それに沿ってコンクリート用の型枠合板(コンパネ)を切ったもので型枠をしっかりと作ります。そして遣方から遣方へ水平に糸を張り、この糸を基準にして地表から10cm上の部分の型枠に水平の印をつけておきます。後は横筋を1本入れ、縦筋に結束線を打ち、固まるまで2~3日そのままにしておきます。そして型枠をはずせば基礎は完成です。



ブロックの積み方

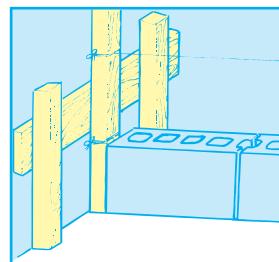
1 1段目を組みます。

ブロックの高さ(19cm)に1cmの目地幅を加えた高さ(20cm)を基礎から測り、その位置の縦遣方に水糸を張ります。水平かどうか水準器でチェックしてからこの糸に合わせて1段目のブロックを積みます。まずモルタルをブロックコテで基礎の上に多めに乗せ、ブロックを押しつけるようにして乗せます。2個目からは、接続部にあらかじめモルタルを乗せておいてからつなげていきます。1個ブロックを積むごとに水準器で前後、左右が水平かどうか確かめながら作業してください。水平の調節はコテの柄でたたいてください。



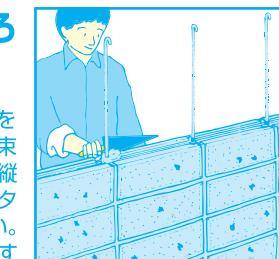
2 2段目から目地幅に注意します。

1段目が終ったら水糸を20cm上に張り直し2段目を積んでいきましょう。このとき目地幅は1cmにするように注意しながら作業していってください。2段目からはモルタルは目地部分に乗せるだけです。ブロックの全面に乗せる必要はありません。水平のチェックは念入りにやってから次に3段目に移っていきます。



3 鉄筋の交差するところは結束線で結びます。

2段目と5段目、8段目の上には横筋をいれますが、縦筋との交差部分は結束線で十文字に結んでください。また縦筋の通っている穴にはすべてモルタルを詰めておくようにしてください。一度に7~8段も積むと歪めることができますので、4段積んだら1日おいてそれから5段目を積むようにしましょう。



4 笠木ブロックを乗せて仕上げます。

ブロックを積み終ったら一番上に笠木ブロックを乗せてください。これででき上がりです。